

RKU Today

流通経済大学広報誌

WINTER 2011

vol.14

【特集】

流通経済大学付属
柏高等学校の今

— 創立25周年を迎えて —



G・R・O

流通経済大学

04

【特集】

流通経済大学附属柏高等学校の今

—創立25周年を迎えて—

文：田畑 亨（スポーツ健康科学部講師）

10

【学長室だより】

歴史に学び、理論を学ぶ

小池田富男（流通経済大学長）

12

【連載】ポルトガル語の「窓」から

第1回「食」をめぐる日葡交流余話（前篇）

日埜博司（流通情報学部教授）

14

Close Up!

流通経済大学 [教職員紹介]

16

【馬場啓一のRKUウォッチング】

「ワールド・カップは貴重な経験になりました」

—サッカー部・山村和也 選手—

文：馬場啓一（法学部教授）

18

【OB/OG 訪問】立川が聞く。

久保田健一郎さん（1972年3月卒業・石岡市長）

取材：立川和美（社会学部准教授）

20

【留学生紹介】

陳 雪玲さん（中国出身）

「一期一会」の出会いを大切に

取材：沖野雅広（企画広報室）

21

流通経済大学校友会・三宅雪嶺記念資料館からのお知らせ

22

NEWS & TOPICS



巻頭言



学生の本分は勉学、運動、読書、自己啓発にある。

さらに加えるには、キャンパスに於いて良き友と出会い、
一生の知己を得ることである。

友情とは、金銭に換えられない、かけがえのないものだ。

龍ヶ崎であれ新松戸であれ、

諸君が学ぶ開かれたキャンパスには、

様々な可能性が、その手の届くところにある。

真の友人を発見し、友情を育むのに、

これ以上の環境はない。

4年間、勉学に勤しみ、読書し、

体力作りに励み、スポーツに打ち込む。

同時に、将来の人生設計に邁進する時、

大いに役立つのが親友知己との語らいである。

それは教師の指導とはまた異なる位相を有するもので、

実に得難い。

友情とは一生を貫く心意気の所作である。

流通経済大学付属 柏高等学校の今

創立25周年を迎えて



流通経済大学付属柏高等学校。
千葉県柏市十余(とよ)ふた伊勢原の
七万平方メートルという広大で緑溢れる場所に高校はある。
高級住宅地に隣接しているため、とても閑静な場所でもある。
その広々とした敷地には、充実した校舎はもちろんのこと、
人工芝のラグビー場、サッカー場、野球場、生徒研修施設と
近隣の高校では類をみない施設を完備している。
ちょうど三年前。お正月の風物詩の一つでもある、
全国高等学校サッカー選手権大会での優勝で
全国にその名を広めた出来事は、いまでも記憶に新しい。
この流通経済大学付属柏高等学校が
二〇一〇年で創立から三十五周年を迎えた。
これまでに八〇〇〇名を超えている
卒業生たちは、流経大のみならず、
全国の国公立・私大へと進学し様々な分野で活躍している。
今回の特集は、流通経済大学の唯一の付属校である
柏高等学校の「三五年の歩みと「今」を紹介する。
文：田畑亨(スポーツ健康科学部講師)

流通経済大学付属 柏高等学校の開校

流通経済大学付属柏高等学校(以下、
柏高等学校)は、大学の創立二〇周年事
業として開設された。設立の趣旨には、
「高校と大学との一貫教育を通して、詰
め込み主義の受験教育から一線を置き、
読書やスポーツ、芸術・文化活動を通し
て豊かな知性と感性を育む」と記されて
いる。この様な設立の趣旨に沿いながら、
開設準備は順調に進み一九八五年四月、
千葉県の東葛地区周辺から男子四五四名、
女子四七名、合計五〇一名の生徒が千葉
県柏市の地に集い、柏高等学校は華々し
く開校したのである。

- 【流通経済大学付属柏高等学校 沿革】
- 1985年4月 流通経済大学の創立20周年事業として千葉県柏市に流通経済大学付属柏高等学校開設
 - 1988年4月 スポーツによる人格形成を目指す「普通科Ⅱ類」コースが設置される
 - 1990年4月 生徒の個性と実力を伸ばす独自の「学校6日制」と「コーディネート自由の制服」を取り入れる
 - 1999年4月 難関大学への進学を目標とする「普通科Ⅲ類」コースが設置される
 - 2009年4月 独自の「学校6日制」を実施



日本的教養と 国際性を培う 教育の展開



柏高等学校の教育方針の一つに、流通経済大学との一貫教育を柱とし、ゆとりある教育内容によって日本の教養と国際性を養うと掲げられている。

昭和六〇年代当時は、まさに大学受験が加熱の一途を辿り、高校生はいわゆる大学受験に向けた「詰め込み教育」を強いられていた。そのような中で、柏高等学校は、当初から大学への一貫教育をうたい、日本古来から伝わる、柔道、剣道、書道、茶道、華道といった日本の伝統を重んじ、また日本人としての教養を深めるカリキュラムを展開している。

一方、グローバル化社会の到来により、豊かな国際人として、英語教育にも力を注いでいる一方、中国語、フランス語、ドイツ語といった語学教育の充実を図っている。



教育理念と目標

■教育理念

世界に雄飛する社会有為の人材を育成する。「思いやりの心」と「奉仕の精神」を培う。

■教育目標

豊かな教養と品性を育てる教育。一人ひとりの個性を活かし実力を伸張する教育。



流通経済大学付属
柏高等学校校長
廣瀬 清

【生徒の個性を活かす3つのコース】

■普通科I類

大学のさまざまな学部への進学に対応したプログラムを持ち、学習と部活動の両立を目標としたコース。英語を中心とした語学の教育を重視し、さらに第二外国語として、中国語、ドイツ語、フランス語が選択できることも大きな特徴となっている。

■普通科II類

スポーツの部活動に打ち込みながら基礎学力をつけ、将来の大学進学を視野に入れることができる文武両道を目指す男子コース。対象となる部活動(強化部)はサッカー部、ラグビー部、硬式野球部、柔道部、剣道部、男子バスケットボール部、陸上競技部など。

■普通科III類

国立大学、難関私立大学文系、医学、薬学を含む理工系の大学への現役合格を目指すコース。大学受験専用の土曜日の特別講習や夏休みの進学講習、勉強合宿など、難関大学現役合格を達成するための数々のプログラムが組まれている。



行を実施して一〇年、生徒たちから、大好評を得ているという。

また、高校生活において修学旅行は大きな行事の一つであるが、その行き先も、複数の旅行業者を高校に招き、コンペ形式で行き先を予算の範囲内で生徒が決められるという。これまで、海外への修学旅行は行われていないが、この方法で修学旅行を実施して一〇年、生徒たちから、大好評を得ているという。

開校から五年後には、制服をモデルチェンジし、全国ではまれな、生徒自身が自由にコーディネートできる制服を取り入れた。生徒を型がっちりとはめるのではなく、決まりの範囲内で生徒個人の個性を引き出す校風が伺える。

柏高等学校を訪れるとまず感じるのが、校舎内がともきれいだということである。校舎内の廊下には、ゴミひとつ落ちておらず、教室内も机や教材等がきれいに整頓されている。生徒たちは、落ち着いた雰囲気、学校生活を送っていることが伺えた。



ユニークな校風

地域住民に愛される 柏高等学校の部活動

柏高等学校は、開校当初からスポーツ系・文化系を問わず、部活動に力を注いでいるのも特徴である。今や「流経大柏高ラグビー部」は、千葉県内には敵なしの状態で、高校ラグビーの聖地「花園」でも常連校である。また、ラグビー部で活躍した多くの選手は、流経大ラグビー部に進学し、現在の大学の活躍へとつながっている。

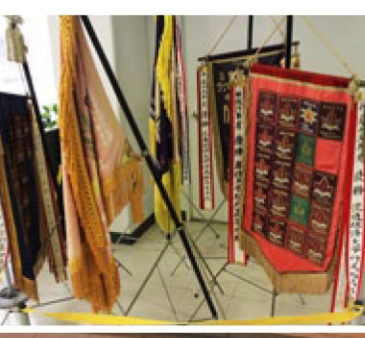
サッカー部は、三年前の全国高等学校サッカー選手権大会での全国制覇は今なお、記憶に新しいところである。あの快挙により、柏高等学校は全国にその名を轟かすこととなった。現在では、全国各地から柏高等学校に入学し、プレーをしたいという生徒が集まり、部員は一五〇名を数えるほどとなった。

硬式野球部は、監督に松田訓氏を迎え、甲子園出場を目指し日々練習に励んでいる。
柏高等学校のスポーツ系部活動には、「地域のおじちゃん」のファンたちがいるのも特徴である。夕方の練習の時間になると、どこからともなく、「地域のおじちゃん」が自転車でやってきて彼ら高校生

生の練習を見ては、楽しそうにおじちゃん同士で談笑している。また、練習を観戦しに来た方々に、マネージャーがコーヒーマシンの差し入れをしている光景は、実に微笑ましく映る。柏高等学校の部活動は地域住民に愛されている。

柏高等学校は、スポーツのみならず、文化系部活動の活躍も華々しい。放送部は全国の放送コンテストで二年連続の優秀賞を受賞。書道部も、「国際高校生選抜書展」文部科学大臣賞、高野山競書大会文部科学大臣賞など、数々の全国コンクールで賞を受賞する活躍ぶりである。

柏高等学校が開校して二五年、柏市十余二の落ち着いた環境の中で生徒たちは地域住民に愛されながら、勉強に課外活動に精一杯取り組み、青春時代を謳歌している。生徒たちは、柏高等学校での三年間の学習で、日本的教養を持つ国際社会の一員として、世に羽ばたいていくのである。



部活動一覧

- 体育系
 - サッカー部(男・女)
 - ラグビー部
 - 硬式野球部
 - 柔道部
 - 剣道部
 - 陸上部
 - 新体操部
 - チアダンス部
 - バスケットボール部(男・女)
 - バレーボール部(男・女)
 - テニス部(男・女)
 - バドミントン部
 - 弓道部
 - 卓球部
- 文化系
 - 吹奏楽部
 - 書道部
 - 放送部
 - 演劇部
 - 文芸部
 - 茶華道部
 - 英語部
 - 美術部
 - 箏曲部
 - パソコン部
 - 楽童(軽音楽)部

校章の由来

流通経済大学付属柏高等学校の校章は、智識(知慧と見識)を涵養し、真理を究めることを象徴した開いた書籍の上に、所在地、柏市に因んだ柏の葉を三葉、組み合わせたもの。3枚の葉は、右が「誠実」、中央が「正義」、左が「勇氣」と、流通経済大学付属柏高等学校の教育の指針を示し、書籍には校名が記されている。



流通経済大学付属柏高等学校
〒277-0872 千葉県柏市十倉二1-20
TEL: 04-7131-5611
FAX: 04-7131-4553
http://www.ryukei.ed.jp/
生徒数: 956人(男子629人・女子327人)
教員数: 専任42人
職員数: 専任7人(いずれも2010年12月現在)





【学長室だより】

Vol.07

歴史に学び、理論を学ぶ

学長 小池田富男



アジア地域における中国の経済的、軍事的な台頭によって、戦後のアメリカ合衆国を軸にしたリベラルな国際秩序が瓦解し始め、特に環太平洋地域で構造的な地殻変動が起きている中で、もはや現状維持という選択肢がないとすれば、これから我が国がどこに向かって進むべきかについて、今ほど明確にしなければならぬ時代はない。どのような外交政策を選択すべきかは、過去の歴史認識と将来を見据えた「価値判断」の問題であり、そこには政策選択の序列づけはあっても、国際法の解釈などで簡単に処理できる一義的な「解」など存在しない。だとすれば、国際関係の「理論」を学ぶ以上に、「歴史」に学ぶ意義は極めて大きいのではないだろうか。不確実な将来について、後戻りのできない選択をしなければならぬからである。

ところで、学者に限らず、社会科学や人文科学の分野において真摯に学問に向き合ってきた人たちがあれば、これまで一度くらいは一九世紀半ばのG・シュモラーとC・メンガーの間の有名な「方法論論争」の洗礼を受けてきたはずである。またそれを踏まえて、M・ヴェーバーの「価値自由論」(Die Wertfreiheit)を学んできた人も多からう。大学で高等教育を受けた者であれば、将来社会のリーダーとなるべく、それぞれの専門分野において普遍性と客観性を持った理論を修めなければならぬが、しかし同時に、偏りのない「歴史認識」を踏まえて、高いレベルの「価値判断」ができる人材でなければならぬことから、これらの「論争」によって示唆されることは多い。

これらの「方法論論争」やヴェーバーの「価値自由論」は、ただたんに科学方法論としての演繹的方法と帰納的方法との間の比較優位を論ずるものでもなければ、それらの安易な総合を企図したものでなかった。だが、それが疑うことが出来ない単純な命題から出発して仮説的モデルを構築する演繹的方法について、客観性を保証するものでなければならぬ。ただ、ヴェーバーの「価値自由論」そのものは、しばしば誤解されたように、たんに経験科学における認識の客観性がいかに担保されるかということについて論じただけのものではない。むしろ逆に、「科学的認識の領域」と「価値判断の領域」とを明確に区分けすることによって、「価値判断」こそが人間を歴史の主体たらしめ、あらゆる「人間的自由」の根源としての人格の尊厳も、こうした「価値の領域」に由来するものであることを明らかにすることになった。ヴェーバーが安易な「論理実証主義」にも、また素朴な「歴史の必然」論にも陥らなかった所以である。そしてこれは、かつてカントが自然界を認識する「理論理性」に対置して、道徳などの形而上学の問題を取り扱う「実践理性」を区分したことに対応するものであり、歴史を左右する意思決定とは、まさにこうした「実践理性」に関わる重要なテーマなのである。したがって、こうした「実践理性」をいかに育てていくかもまた、大学教育の大きな課題ではないかと考えている。まさに、気概と高い志を持った人材の育成に他ならない。

では、T・クーンが「科学革命の構造」において指摘したように、いかに精緻化された理論であっても、ある一時代において科学者間で受け入れられた「解を求めするための約束事」の上に成り立っているに過ぎず、時代が過ぎれば「パラダイム転換」を余儀なくされる。また、歴大な個別的で経験的な事実から出発してその中に本質的な命題を探り出すとすると帰納法についても、ヴェーバーがいうように、存在するもの(Sein)と存在すべきもの(Sollen)とを仕分けし、何が本質的であるかについての事実認識と価値判断とを区別することで科学的認識から価値評価を

排除し、客観性を保証するものでなければならぬ。ただ、ヴェーバーの「価値自由論」そのものは、しばしば誤解されたように、たんに経験科学における認識の客観性がいかに担保されるかということについて論じただけのものではない。むしろ逆に、「科学的認識の領域」と「価値判断の領域」とを明確に区分けすることによって、「価値判断」こそが人間を歴史の主体たらしめ、あらゆる「人間的自由」の根源としての人格の尊厳も、こうした「価値の領域」に由来するものであることを明らかにすることになった。ヴェーバーが安易な「論理実証



M. ヴェーバー Max Weber (1864～1920)
ドイツ歴史学派の流れを汲むプロイセン出身の経済学者であり、社会学者でもある。西欧近代の文明を他文明と区別する根本原理を「合理性」と仮定して、比較宗教社会学の手法で分析した。また人間の社会的行為を個人の内面から理解しようとする「理解社会学」を提唱した。代表的著作として『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』(1904-1905)がある。

学長の活動 2010年9月～11月

- 9月14日 全学入試協議会
- 9月25日 2010年度春学期卒業式、保育士養成課程担当教員懇談会
- 9月28日 中国海南大学 交換留学生受入式、全学入試協議会
- 10月5日 学部長連絡会議
- 10月15日 財団法人大学基準協会総会出席
- 10月26日 全学入試協議会、大学協議会
- 10月28日 千葉市立稲毛高校、市立千葉高校訪問
- 11月5日 NPO法人ドラゴンズ総会出席
- 11月9日 経済学部大岡賢典教授永年勤続表彰、学部長連絡会議
- 11月11日 アジア大会日本代表穴久保璃子(新体操、スポ健2年)、井上愛美(女子ラグビー、スポ健1年)、黒岩純スポーツ健康科学部准教授(女子ラグビーヘッドコーチ)来訪
- 11月16日～17日 「私立大学の教育・研究の充実に関する研究会」出席
- 11月18日 私立正則学園高校訪問
- 11月20日 茨城県地区校友会出席
- 11月23日 社会学部元教授「辻村明先生を送る会」出席
- 11月30日 大学協議会、入試センター試験担当者説明会



日葡修交約締結五〇周年を記念する切手
上：アズレージョ(装飾タイル)。国立アズレージョ博物館蔵
下：伝統的操り人形「聖王妃」。マリオネット博物館蔵

「食」をめぐる 日葡交流余話(前篇)

「我らはすべての物を、手を使って食べる。日本人は男も女も、子供の頃から二本の棒を用いて食べる」——一五六三年に来日したポルトガル人宣教師ルイス・フロイスが『日欧文化比較論』(一五八五年に島原半島の加津佐で脱稿)という小著にそう書き留めたとおり、当時のヨーロッパ人は手づかみで物を食べていた(美味なるものは手で食べてこそその醍醐味が味わえる、という考え方がヨーロッパではその後も永く支配的であった)。

そんなポルトガル人の食生活ぶりを伝える絵画史料がローマのカサナテンセ図書館に残されている。**01**は大航海時代(歴史家ロナルド・トビはこれに代わる呼称として「大遭遇時代」を提唱する)のペルシア湾岸ホルムズにおけるポルトガル人を描いたもので、男女が食事を楽しんでいるのはなんと水を張ったタンクの中。暑熱で水が蒸発するのであろうか、召使いに水を補給させたりしている。食卓にはナイフが見えるだけ。手づかみの食事をして一日瞭然だ。そ

く処理し、ポルトガル名物のシヨウリツソ(チョリソ)。ブタの血を固めた黒みの強い腸詰めソーセージ)の仕込みを終える。その一連の作業を写したものだ。晩秋の森に転がる栄養豊かなドングリをたっぷり食わせ肥育したブタ(**04**)を、冬の保存食を作るため屠殺する(これをマタンサと呼ぶ)。ドングリによる肥育やマタンサ(**05**)は、ヨーロッパの農村で中世以来連続と継続する晩秋初冬の風物詩であり、一月と二月をそれぞれ象徴するカトリック時禱書の定型図像だ。

中世ヨーロッパの食を基礎的に支えたのは、飼い馴らしたり狩猟で獲たりした獣および鳥の肉であった。ナポリ国立図書館に所蔵される手稿本『ドナ・マリア内親王の料理書』(ドナ・マリアはポルトガル黄金時代の立役者ドン・マヌエル一世王の内孫、マリアが一五六五年、第三代バルム公爵アレックスサンドロウアルネーゼに嫁いだとき、このレシピ集を持参したらしい)には、ブタのほかウシ、ヤギ、ヒツジ、ウサギ、ニワトリ、ハト、ウズラなど二五種に上る肉料理が収載される。当時こうした素材を調理する方法は基本的に四つであった。すなわち①串に刺して焼く(assado)②煮込む(cozido)③千切りにして焼く(assado de galinha)④蒸し焼きにする(sentado)。

②の代表は「コジード・ア・ポルトウゲーザ」(Cozido a Portuguesa)で、今もポルトガル家庭料理の筆頭だ。ポトフのように、ニワトリやブタの肉、ブタの血入りチョリソ(前出)、キャベツ、ジャガイモ、カブ、ニンジン、

れを示す別の実例なら、『ドン・マヌエル一世王の時禱書』所収の**02**に求めることができる。一六世紀初めリスボアにおける中流市民一家の食卓を描いたもの。小奇麗な格好をさせられて家族の一員のようになったアフリカ出身の黒人奴隷(召使)の姿も見える。人間の食べ残しはイヌが処理した。南蛮人と呼ばれたポルトガル人が手づかみでものを喰うという風習を日本へ持ち込んだとき、日本人はどう感じたか。外面的な清潔さを重んずる日本人にはおそらく我慢ならぬものと映ったであろう。が、ポルトガル人の食習慣全般が日本人に嫌悪されたかという点、後述のとおりどうもそうではないらしい。

一九九〇年頃ポルトガル内陸部アレンテージョ地方で手に入れた民俗誌にも貴重な絵葉書がある。ストレスを与えぬようブタをあやしあやし連れ出し(**03**)、屠殺用のテーブルに載せて一気に息の根を止める一族郎党が総出で、肉や内臓や血を手際よ

コメ、マツの実のほか、ブタの耳や脚(いわゆるトンソク)もぶち込んで煮込む(食材を**06**に示す)。図版には見えないが絶品とされるのがブタの鼻。ブタは鼻をよく動かすため筋肉が発達しているのだが、よく煮込むとゼラチンのように柔らかくなり、軟骨までが旨い。

ポルトガルが日本の食文化へ与えた影響といえば、パンやカステラ、コンペイトウやポードロなど思い浮かべる人が多いであろう(ちなみに長崎方言のポードロは明らかにポルトガル語の porco de II カボチャに由来する)。東北大学附属図書館狩野文庫に伝わる『南蠻料理書』という写本から、興味深い一例を拾うことができる。この写本は一七世紀後期、キリシタン禁令によって追放されたポルトガル人への記憶がまだ完全には消え去っていない時期に日本人の編んだ(森田四郎右衛門という人物の手になるとい説があるが確証はない)稀有なレシピ集だ。そこに現われる「くしいと」や「てすへいと」という料理。それぞれが前記ポルトガルの調理法②と③の訛りであることは疑いようがない。伝承料理研究家奥村彪生の監修により『南蠻料理書』のレシピは厳密に考証されその復元模型が御食国若狭おぼま食文化館に所蔵されているのだが、「くしいと」のそれを図示する(**07**)。食材こそ大きく違うけれど、cozido(煮込み)である点、調理法の基本において「くしいと」とその相形とはまったく同一と言ってよい。



Livro de Horas de D. Manuel, IN / CM, 1983より



Além-Mar. Códice Casanatense 1889, Bertrand & F. M. Ricci, 1984より

02

01



いざマタンサへ。
©Audiovisuais e Artes Gráficas, Ltd.

03



「コジード・ア・ポルトウゲーザ」の食材。José Quitério & Homem Cardoso, Comer em Português, CTT Correios de Portugal, 1997より

06



「くしいと」の復元模型。
京都文化博物館「京の食文化展—京料理・京野菜の歴史と魅力」(2006年)より

07



エストレモースの粘土細工。1985年の絵葉書。
男たちが屠るブタの血をおかみさんが深鍋に受ける。
©Edição Grupo AEL

05



11月、ブタにドングリの実を食べさせる。
レイモン・カザル「ペリー侯の豪華時禱書」
(木島俊介訳、中央公論社、1989年)より

04

ポルトガル語の 「窓」から

(4回シリーズ)

この言語から広がる豊穡の世界へようこそ!
ポルトガル文献学の日笠博司教授が案内します。
日笠博司(流通情報学部教授)
Hino Hiroshi



【就職支援センター】
藤本英城 就職支援課長



【スポーツ健康科学部】
山中邦夫 教授



【法学部】
中山秀登 教授



【流通情報学部】
増田悦夫 教授



【社会学部】
大西 哲 教授



【経済学部】
知念民雄 教授

キャンパス・ライフを 精一杯楽しみましょう

1988年に本学経済学部経営学科を卒業しました。その後、職員として多くの学生たちと接し、気がつけば22年が経過していました。まさに「光陰矢のごとし」です。

そんな私から学生へのアドバイスは「キャンパス・ライフを精一杯楽しみましょう！」です。

社会人になると、なかなか思うように自分の時間を取れなくなります。ぜひ学生のうちに、大学にある図書館やコンピュータールーム、スポーツ施設など恵まれた施設をフルに活用し、勉強、資格取得、クラブ・サークル活動、友達や教職員との交流などにも「積極的」に取り組んで欲しいと思います。

自ら目的を持ち、考え、行動を起こすことで、人間的にも大きく成長することは間違いありません。まさに学生時代の経験は「人生の宝物」です。これから私は職員として、OBとして、学生の皆さんが充実したキャンパス・ライフを送ることが出来るよう全力でサポートをしていきたいと考えています。

仲間・結束・ よいチームワーク

滋賀県甲賀市出身。東京教育大学大学院体育学研究科修了の先生は、スポーツコーチングが専門。サッカーコーチング、スポーツ教材研究などの科目を担当されつつ、本学サッカー部顧問でもある。海外でも調査研究活動を経験され、そこで培った経験を活かし、わが国のサッカーの競技力向上に尽力されてきた。

昼休みに、自然と学生が先生の研究室に集まってきて談笑している声が聞こえてくる。そんな折には、もっと積極性を出して行動するように指導されているようだ。

現在、本学の運動部の活躍にも強い関心を持たれており、本学を牽引してきた運動部はもちろん、ここ数年、急成長してきている運動部にもエールをおくり、さらなる飛躍を願っている。

趣味はゴルフと絵画。ゴルフについてはかなりの腕前で、教職員で組織するゴルフサークル「いこう会」のコンペでは常に、上位に入賞するほどの腕前である。日々の大学生活の中で学生や教職員との交流をとて楽しんでおられる先生である。
(田畑 亨・記)

民法って意外に面白い

法学部の『流経法学』で紹介しているのですが、学生はもとより一般の方たちにも、法律（私の場合は民法）をよりよく知ってもらい、理解を深めるために、一工夫して、教えています。

「民法の流れ図」がそれで、とかく難解と敬遠されがちな民法について、図解と記号により、わかりやすく講義を進めています。例えば○や□や▽を駆使して、表現し、理解を助けようという工夫です。詳しくは『流経法学』を参照していただくといいのですが、インターネットでも可能です。

もう7年ほど継続しておりますがおかげで「民法って意外に面白い」と、学生からうれしい反響があります。

人間の暮らしを司る民法は、身近なようでいて、実は敷居が高い。六法全書という存在も、そういう印象を深めていると思われます。アタマが痛くなると、敬遠されるのです。「民法の流れ図」によって、講義を受ける学生も、ネットで知った一般の人々も、大いに民法に関心を持っていただけたらうれしいですね。

「情報」のビジネスへの 応用を求めて

2002年4月から本学にお世話になっています。NTTでの研究開発の経験から情報技術の仕組みや応用面に焦点を当てた教育や研究を進めています。

インターネットや携帯電話は生活基盤として定着し、特に「デジタルネイティブ」と呼ばれる世代の学生にとっては空気のような存在かも知れません。24時間30cm以内にある端末を使って情報を当然のように呼吸しています。

ビジネス面を考えた場合、物流・流通、マーケティングなどの分野への情報の活用はまだ道半ばであり今後さらに伸びていこうと思っています。担当科目の「通信・ネットワーク概論」「情報応用システム論」「モバイルマーケティング論」の講義を通して、また、ゼミでの卒業論文や修士論文のテーマを通して学生たちと一緒に考えています。

情報の活用には情報技術を応用分野の課題に結びつける能力が求められ、簡単ではありません。しかし、それを経験した学生は貴重な人材になり得る…そのような思いで日々取り組んでいます。

わたしの流経大生活

1988年の社会学部開設当初に着任したので、今年で流経大生活23年目である。しかし専任教員として着任する前に、すでに4年ほど非常勤講師を勤めていたので、都合27年になる。

当時はまだバブルの最中で、本学にも多くの受験生が殺到していた。いまでも懐かしく思い出すのは、一日で試験の採点が終了せずに、市内の旅館に一泊して、採点業務に励んだことである。100枚ほどが束になった答案用紙が、次々と机上に並べられて、少し大げさに言えば、いつ果てるとも知れない採点作業がなつかしく思い出される。

そして今、大学は全入時代を迎え、選り好みをしなければ、誰もが入学できる時代となった。当然、学生の質も変わり、それを受け入れる大学もそれ相応の対応に追われている。さまざまな対策を講じて、高等教育機関としての役割を果たすべく努力を続けている。そんな荒波の中で、ウロウロしながら過ごしてきたのが、私の流経大生活なのかもしれない。

地球に生きる

日本列島においては茨城、神奈川、北海道、広島、沖縄に住んできた。これらの場所を示した地図は、次なる拠点は小笠原諸島ですヨとささやく。

自然地理学（とくに地形と気候の関係を考える気候地形学）を専攻する。内外の異郷の地を歩くことによって、そこで暮らす人びとも関心がひろがっていく。長期の生活や調査体験した外国はフランスとニジェール（西アフリカ）であり、これらと日本国とを結ぶ三角の座から世界をみてしまう（三角測量する）クセがいつの間にか身についているようだ。

ニジェールのサバンナには、半年以上にわたって雨がまったく降らない乾季に葉をつける一方で雨季に落葉する樹（現地語でガオ）がある。天（降雨）に背を向けてわが道をゆくガオは、その「ヘソ曲り」な性格ゆえに、生業（農耕や牧畜）に大いに貢献するので、大地に生きる人びとから大切にされている。学生にこの説明をするとき、私は熱く雄弁になり、そして「アフリカ病」をわずらう。

馬場啓一の RKU ウォッチング

【第14回】
流通経済大学サッカー部
山村和也選手

撮影：齋藤明(総務課)

●山村和也／やまむら・かずや

1989年12月生まれの21歳。
長崎・国見高校出身のディフェンダー。高校3年時にU-18日本代表候補に選出されてから、各年代の日本代表に選出。流経大2年時には、大学生として18年ぶりの日本A代表に選出され、昨年5月の南アフリカ大会では、日本代表のサポートメンバーとして、チームに帯同した。また、同年11月に開催されたアジア大会では、U-21日本代表のキャプテンとして、チームをひっぱり優勝に大きく貢献した。



Kazuya Yamamura >>



ワールド・カップに出場した山村和也君。残念ながらピッチでの活躍は見られなかった。しかし代表メンバーに選ばれた実力と、本場における世界の強豪との試合を目の当たりにした経験は、今後の日本サッカー界において、大いなる財産となるに違いない。

ワールド・カップ以降も、世界各地での様々な試合に参加し、素晴らしい成果を挙げているのは、サッカー・ファンでなくとも、よくご存知だろう。本学の誇るべき至宝である。「中学生からサッカーを始めました。最初は兄弟につられて、これがきっかけです」

ご覧の通り実に好青年。ご両親はさぞ自慢であろう。「出身は長崎。坂の多い街です」名門国見高校から流通経済大学に入学。法学部である。小生も一般教養で教えたらしい。らしい、と書くのは山村君、練習や遠征が

「ワールド・カップは
貴重な経験になりました」



©KATO MASAOKI



多いから。それでも、勉強は好きだという。諸般の事情で、どうしてもサッカー・グラウンドにいることが多い。「海外では食事とか、色々不都合があるのでと心配されるのですが、割と平気です」

たのだろう。「ひじょうに厳しい監督で、チーム全てに二二〇パーセントの力を発揮するように求められました」

名監督による采配をワールド・カップの現場で体験したことが、どれだけこれからの山村和也が、すぐ復帰できました。若さゆえの体力であろう。とにかく怪我や故障だけは気をつけて欲しいと、ほとんど親のような気持ちになってしまふ。山村和也。その未来は限りなく明るい。今後とも頑張ってくれと、祈るばかりである。



2010年11月26日、中国・広州で行われた第16回アジア競技大会を終えて成田空港へ到着した本学サッカー部の3人。左から増田卓也(スポーツ健康科学科3年)、山村和也(ビジネス法学科3年)、比嘉祐介(ビジネス法学科3年)

さらには我が流経大サッカー部の誇る中野監督以下、素晴らしいスタッフが本学には揃っている。サポート体制は万全だ。「二〇一〇年W杯日本代表の」岡田監督は、チーム全員の尊敬を集めていました」

君にプラスになったか計り知れないと言ふ。「趣味は、特にありません」とにかくサッカー一筋。そしてそれはこれからも続く。多くのチームから、卒業後は是非うちにと、オファーが来ている。「二〇一〇年に怪我をしました



©KATO MASAOKI

常に「自己研鑽」を怠らないことが仕事をする上で大切ですね。

OB/OG訪問

立川が聞く。

Tachikawa hears.

茨城県南部に位置する石岡市の市長を務められている久保田健一郎さんに、現在のお仕事に就かれたきっかけなどをお聞きしました。

久保田健一郎さん

(1972年3月 経済学部卒業)

Kenichiro Kubota

取材／
立川和美(社会学部准教授)



久保田さんは本学の第四期生でいらつしゃいますが、大学時代はどのような研究をされていたのですか？

卒業論文では、第一次世界大戦後の全体主義に関する研究をしました。いわゆる、世界的な金融恐慌やブラックマンデーについて、またその当時の台湾銀行について調査したと記憶しています。今振り返ると、消化不良の未熟な内容で、先生からも「全体主義とは資本主義の発達段階において偶然発生したものであるのか」と一蹴されてしまったのですが、自分で興味を持ったテーマについて、ひとりでコツコツと調べて書きあげたという実感はあります。

卒業後、社会に出られるにあたって、学生時代はどのようなお考えをお持ちでしたか？

その当時は、「衣食住」のいずれかに関係する仕事に就けば、一生困らないだろうと考えていました。私は「住」に関する仕事に魅力を感じまして、在学中に「不動産取引主任者」という資格を取得しました。実は四年生の時には比較的のんびり構えていて、熱心に就職活動をするということもなかったのですが、ちょうどタイミング良くバス会社が新規に不動産業務を立ち上げるために不動産取引の有資格者を探していました、この会社に就職することになりました。

将来に向けて、学生時代からきちんと準備されていたのですか？

いやいや、私ほどの劣等生はいなかったというくらい、低空飛行でしたよ(笑)。ただ、社会人になってからは毎日仕事に打ち込み、小さい会社だったので、仕事をめぐって上司と意見を戦わせたりました。結局、

三〇代半ばで独立して、不動産業を始めるまでの約一〇年間、会社勤めをしました。

その後、四〇歳の時に市議会議員のお仕事を始められたということですが、そのきっかけはどのようなものだったのですか？

実は、社会人になってからずっと、漠然とではあります「福祉」の仕事をしたと考えていたんです。それを突き詰めていくうちに、「行政」を動かすことが最も近道なのではないかと考えるに至りまして、周りの方々の応援もあり、市議会議員を務めるようになりました。

社会に出てから、企業にお勤めになったり、経営者をされたり、また現在は市長として活躍されたりと、多くのご経験ををお持ちですが、お仕事をされる上で大切にしている姿勢はどのようなことですか？

常に「自己研鑽」を怠らないことですね。「これでいいんだ」と今の状況に満足した姿勢ではだめですね。それから人生には「失敗」がつきものですが、そうした失

敗から学ぶということも、ひとつの「自己研鑽」といえるでしょうし、自分を知った上で、新たな物事に挑戦することも、また「自己研鑽」といえると思います。ご自身の今までの歩みの中でもそういうことがおありになったのでしょうか。

そうですね。たとえば市長職に就くにあたっては、立候補する時点での不確定要素は大変大きかったわけですね。もちろん、状況的に厳しい側面もありました。そうした中で、「自分の総合力」といったものを分析し、自分を分かった上で決断する。冷静に状況を判断し、ある程度勝算が見込めたので立候補を決定しました。

よく「困難に対しても勇気をもって進め」ということがいわれますが、このように考えると、「勇気」というのは無鉄砲や感情に基づいた行動では決してなく、慎重に自己分析をした上で、それこそ「震えながらも進んでいく力」といえるのではないのでしょうか。

そういった姿勢が現在の久

保田さんにつながっているのですね。それでは最後に、流経大生にひとことお願いいたします。

まず、「自分で学ぶ」ことを覚えてほしいですね。大学では「学ぶ方法」と、人間として必要な基礎的なことを教えてくれます。しかしその先は、自分で学ぶしかないのではないかと思います。最初は、「まねる」ことから始めてもよいのです。それがやがて、自分なりのスタイルになっていくのではないのでしょうか。

それから「読書」をしてほしいと思います。私自身、現在もジャンルを選ばずにいろいろな本を読むようにしています。自分が体験できることは限られています。本を読み、想像力を働かせることによって、疑似体験ができ、人間の幅が広がります。この疑似体験を限りなく実体験に近づける力というものは、皆さんが様々な経験をしながら成長していくことによって、さらに高まっていくものだと思います。読書から得るものは大きいと思います。



当日は、公務でお忙しい中を縫ってのインタビューでしたが、細かい質問にも丁寧に、また穏やかに対応していただきました。「お休みの日はどのように過ごされているのですか？」と伺うと、「ごろごろしてますね」と苦笑される一方、ご趣味のウォーキングについて伺うと、「気分転換や健康のためということもありますが、歩いていると、ふと、いつも頭にある課題の解決の糸口をつかむこともあるんですよ、歩くと意外といいんですよ」とお答えいただいた笑顔が印象的でした。

流通経済大学校友会・三宅雪嶺記念資料館からのお知らせ

【校友会】

●茨城支部総会開催

11月20日(土)、龍ヶ崎キャンパスにて、校友会茨城支部総会が開催され、100名以上の校友と教職員が集まりました。

参加者たちは、キャンパスの写真や卒業アルバムを手にとって当時のことを思い出し、また旧友や恩師との再会を楽しみました。

●校友会韓国支部設立

11月28日(日)、韓国(ソウル市)において韓国支部設立総会が開催されました。台湾支部に続く、2つ目の海外支部となります。支部のメンバーからは、「日本(流経大)で学べたことを誇りに感じている」という言葉が多く寄せられました。

韓国の卒業生は260名を超えており、今後校友たちの横のつながりばかりでなく、日本で学んでいる在學生(留学生)とも連携を進め、ますます発展していきたいと考えています。



【三宅雪嶺記念資料館】

●三宅雪嶺記念講演会

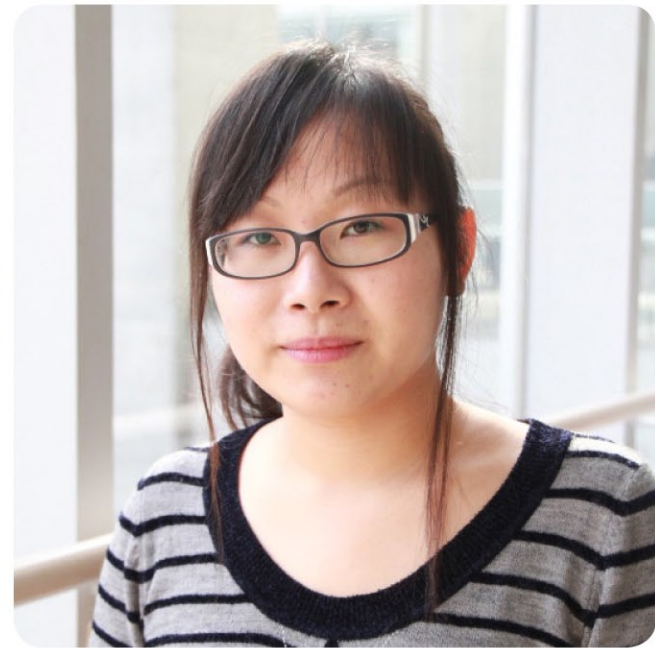
平成22年11月20日(土)、新松戸キャンパスにおいて三宅雪嶺記念講演会が開催されました。

今年は、「哲学者としての三宅雪嶺」をテーマに藤田先生(京都大学教授)と三宅先生(本学名誉教授)にご講演いただきました。また、当資料館に所蔵されている当時の文献や資料の閲覧も行われました。

◇講演
藤田正勝氏(京都大学教授)「明治時代の哲学界と三宅雪嶺」
三宅立雄氏(三宅雪嶺嫡孫・本学名誉教授)「祖父・三宅雪嶺に感じた哲学的な思考」



Hello! international student! 留学生紹介 vol.13



社会学部
国際観光学科2年
陳雪玲さん
チン・セツレイ
中国出身

憧れだった海外での生活を留学という形で実現し、現在は興味のある「観光」の勉強をしている福建省出身の陳さんです。
取材/沖野雅広(企画広報室)

「一期一会」の出会いを大切に



——とてもスムーズに日本語を話す陳さん。日本に留学しようと思ったのは、なぜですか?
小さい頃から一度は外国で暮らしてみたいと考えていました。偶然、留学できるチャンスがあり友達と申し込んでみたんです。日本を選んだのは、アジア諸国のなかで先進国であり、いろいろな技術の最先端が集まる場所だと思ったのと、日本人はルールやマナーを大切にしますよね、信用できる国民性をもっていると思ったからです。
——小さい頃から、海外での生活に憧れていた、このことですが留学が決まったときの心境を覚えていますか?
まず、最初に家族と離れることを凄く寂しく感じたという覚悟があります。でも、海外での

生活への憧れの方が強かったですね。中国にいたときもそうですが、日本に来てからも生活するには、たくさんの人たちと出会いますよ。その一つひとつの出会いが私を成長させてくれるとも思っています。それが、今でも私が私でいるための原動力となっています。
——流経大を選んだのは何故ですか? また、現在何を専攻していますか?
流経大を知ったのは、通っていた日本語学校で先輩が大学生の体験談を話してくれたこと。いろいろと観光名所を巡ることが好きなので、「観光」という分野に興味もあり、流経大は、観光業界についてメインに勉強する学科があったので選びました。二年生に進級してからは、授業の内容がどんどん専門的になってきました。頑張るのは、ゼミの米田先生をはじめ先生方が、やさしく、おも



しるく授業をしてくださるからです。
将来、日本の観光業界で働きたいので資格取得のための勉強も頑張っています。添乗員になるための資格(旅程管理主任者資格)を取得できたので、他の資格にも挑戦していきたいと思っています。
——「観光」という分野を学ぶことも、自分の足で行くことも好きなのですが、日本に留学してからどんな名所に行きましたか?
プライベートでは、お台場や浅草、デイズニールランドに行きました。インターンシップでは、箱根周辺を添乗員として、同行することができました。
次に行きたいのは京都です。昔の日本というか、歴史のある街並みを見て回りたいと思います。



RKU Schedule

2011年1月～
2011年3月

全学

[1月]・18日～31日
秋学期定期試験
[2月]・1日～3月31日 春季休業
[3月]・20日 秋学期卒業式

就職関連

[1月] (3年生対象)
●第8回就職ガイダンス
(就職戦線出陣式)
●業界・企業説明会

〈業界・企業説明会とは〉
就職支援センターが企画する流経大独自の合同説明会です。
就職活動が大変厳しい時代といわれている現在、2012年4月採用で本学の学生を採用、また採用実績のある企業採用担当者を招待します。
志望企業を見つける上で大変参考となる機会なのでぜひ活用してください。

【編集後記】

●冬季休業期間も終わり、いよいよ定期試験の時期を迎える。定期試験は、1月18日(火)から31日(月)までとなっており、学生諸君にとっては日頃の努力が試される非常に大切な時期であり、図書館を利用する学生が多いのもこの時期である。学生諸君の努力が報われることを切に望む次第である。

また、1月20日(木)は暦の上では大寒ということもあり、時節柄風邪やインフルエンザに罹らないように細心の注意をして試験に臨むことも重要である。

●定期試験終了後、2月末には卒業発表があり3月初めには2年生から3年生への進級発表がある。3月20日(日)には卒業式が挙行されるが、卒業する4年生にとっては社会人へのスタートの日でもある。ご承知のとおり政治、経済、外交等が国の抱える諸問題はまだまだ解決されない状況下にある。円高による収益の悪化を克服するために自動車産業などは海外への立地に踏み切る会社も出てきているようだ。一刻も早く政治、経済、外交をはじめ諸々の分野が安定することを望むのは、国民すべてであることは論を待たないことであろう。

今年3月に社会に放立つ卒業生はもちろんのこと来春卒業する3年生にとっても最大の関心事である。

今年こそ良い年になりますようにと願わずにはられない。

(編集子)

04 ●●●●

就職ガイダンス

■第6回就職ガイダンス
(OB・OGからのアドバイス)

11月中旬、本学のOB・OGを招待し「就職活動」「仕事の楽しみ」などについて経験談を話していただきました。受講した学生たちからは、さまざまな質問が飛び出しました。

■4年生による就職活動体験発表会
10月、内定者による「就職活動」の体験発表会が開催されました。「就職超氷河期」といわれる現状、将来の目標に向かう準備をはじめの時期だからこそ、大切な体験を聞けるチャンスに学生たちは、熱心に耳を傾けていました。



05 ●●●●●

もちつき大会

12月24日、毎年恒例となったもちつき大会が龍ヶ崎キャンパスで開催されました。留学生も参加し、初めてのもちつき体験に大喜びでした。



06 ●●●●●

永年勤続表彰

本学に30年にわたって貢献していただいた経済学部の大岡賢典教授に永年勤続の表彰がなされました。



2010年 世界を舞台に活躍した学生たち

2010年も世界各地で行われたスポーツの大会で本学の学生たちが活躍しました。2011年もますますの活躍に期待が持たれます。

■ サッカー

[アジア大会 優勝]
比嘉祐介 (ビジネス法学科3年)
増田卓也 (スポーツ健康科学科3年)
山村和也 (ビジネス法学科3年)

■ 新体操

[アジア大会 国別対抗3位]
穴久保璃子 (スポーツ健康科学科2年)

■ 女子ラグビー

[アジア大会 5位]
井上愛美 (スポーツ健康科学科1年)

■ 柔道

[グランドスラム東京大会2010 81kg級優勝]
中井貴裕 (ビジネス法学科2年)

■ ラグビー

[7人制ラグビー U-24代表選出]
吉田一希 (スポーツ健康科学科3年)
[7人制ラグビー 日本学生代表選出]
小澤 大 (スポーツ健康科学科3年)
[U-20日本代表選出]
辻 直幸 (スポーツ健康科学科2年)
高森一輝 (スポーツ健康科学科1年)

01 ●

つくばね祭 開催

10月30日、31日の2日間、第45回つくばね祭(龍ヶ崎キャンパス学園祭)が「EVOLUTION」をテーマに開催されました。初日は生憎の天候でしたが2日目には好天に恵まれ、サークルやゼミによる模擬店、展示、発表などを訪れる市民の方々や学生、OBなどで賑わっていました。

また、1日目にはメインアリーナにおいて第1回RKU新体操部演技発表会も開催され、見事な演技で観客を魅了していました。



03 ●●●

定期演奏会 開催

12月12日に合唱部の定期演奏会が、23日には吹奏楽部のクリスマスコンサートが、新松戸キャンパス講堂で開催され、地域の住民の方々など多くの観客を前に、部員たちは日頃の練習の成果を発表しました。



NEWS & TOPICS

ご声援
ありがとう
ございました

流通経済大学付属柏高等学校
サッカー部

第89回
全国高校サッカー選手権大会
第3位
フェアプレー賞受賞

流通経済大学付属柏高等学校
ラグビー部

第90回
全国高校ラグビー大会
ベスト8

流通経済大学 駅伝部
前田康太 (経済学科1年)

第87回 箱根駅伝
(東京箱根間往復大学駅伝競走)
関東学連選抜チーム
5区出場

02 ●●

新松戸光のフェスタ

11月20日から12月23日の間、「第7回新松戸光のフェスタ」が開催され、本学新松戸キャンパスや新松戸駅をはじめ、街中の各所が美しいイルミネーションで彩られました。



2011年度入試日程

全学部／学科共通

経済学部／経済学科・経営学科 社会学部／社会学科・国際観光学科 流通情報学部／流通情報学科
法学部／ビジネス法学科・自治行政学科 スポーツ健康科学部／スポーツ健康科学科

試験種別		出願期間	試験日	合格発表	試験場
大学入試 センター試験 利用入試	I	12/20(月) } 1/27(木)	個別試験は実施しない	2/10(木)	—
	II	12/20(月) } 2/23(木)	個別試験は実施しない	3/4(金)	—
一般入試 (3科目型)	I	12/20(月) } 2/1(火)	2/5(土)	2/10(木)	龍ヶ崎・新松戸・東京・ 仙台・高崎・沼津・水戸
	II	12/20(月) } 2/8(火)	2/15(火)	2/22(火)	龍ヶ崎・新松戸・東京・ 小山・郡山・新潟・岡山
	III	1/24(月) } 2/21(月)	2/25(金)	3/4(金)	龍ヶ崎・新松戸・東京・ 仙台
一般入試 (問題自由選択型)	I	12/20(月) } 1/25(火)	2/1(火)	2/7(月)	龍ヶ崎・新松戸・東京・ 仙台
	II	12/20(月) } 2/8(火)	2/16(水)	2/22(火)	龍ヶ崎・新松戸・東京・ 小山・郡山・新潟・岡山
	III	1/24(月) } 3/2(木)	3/8(火)	3/14(月)	龍ヶ崎・新松戸・東京・ 仙台・高崎・沼津・水戸

一般入試(問題自由選択型)とは

外国語、国語、数学の3教科で大設問が2問ずつ(計6問)出題され、うち2問を自由に選択できます(当日試験開始後、問題を見てから解答したい2問を選べます)。

2問を自由に選べる!
各50点 100点満点

外国語
1

外国語
2

国語
1

国語
2

数学
1

数学
2

例1

「得意な国語だけで受験したい!」

「国語だけ」といった、1教科
だけでも受験可能

国語
1

国語
2

例2

「苦手な数学以外で受験したい!」

「国語と外国語(英語)」の
ように、2教科の組み合わせ
でも受験可能

外国語
1

国語
1

詳しくは

受験生向けスペシャルサイトへ ▶▶▶

<http://www.rku.ac.jp/go>

TEL 0297-60-1156 (入試センター直通)

RKU

流通経済大学広報誌 **RKU Today vol.14** 2011年1月発行

編集・発行/学校法人日通学園 流通経済大学企画広報室

茨城県龍ヶ崎市平畑120 〒301-8555 TEL: 0297-64-0001 (代表)

